

たちばな新聞

寶清寺

橋本 聖堂
水谷 聖堂
水谷 聖堂
水谷 聖堂

七月十三日(日) 迎え火
十六日(水) 送り火
七月十七日(木) 十一時より
お施餓鬼法要

※お盆(お盆)の用意があります。
お盆には、ご家族で参拝されますよう
案内申し上げます。墓参用のお花は、管理
事務所にて用意してあります。
また、お盆には、御先祖様が自宅に帰ら
れる事もあって、お宅に伺ってお経を差し
上げる、棚経という習慣があります。(希望
の方は、管理事務所までお申し出下さい。)

「すこしもたゆむ心あらば
魔たよりをうべし」
(聖人御難事)
この遺文は信徒が迫害された、危機
的状況に対し、門下一同を激励された書
状です。私たちは、苦難に遭うと、くじ
けそうになる心と、立ち向かう心を同時
に持ちます。このとき少しでも心が揺ら
ぐと、その隙間に魔が入り込みます。
そうならないように、日頃から心に柱
を立てておくことが大切です。その柱と
は、「正しき」と「清らかさ」を保つ
常に「強い意志」が必要です。
日蓮聖人は、どんな苦難に遭っても、正
しく清らかな心を強く持つていけば、必ず
諸天の守護があるでございませぬ。

住職ひと口法話

第九回

一九六六年、静岡県で一家四人が殺害された「袴田事件」の第二審再審請求で、静岡地裁は再審開始の決定を言い渡した。事件から半世紀、袴田事件の再審が認められたわけだが、静岡地裁は、再審開始を認めた理由を「重要な証拠が捜査機関に捏造された疑いがある」としている。元被告の袴田巖は「冤罪」により死刑が確定し、五十年近くも拘禁状態に置かれており、「世界で最も長く収監されている死刑囚」としてギネスブックにも掲載されている。袴田事件の再審が認められた事で、改めて、「人」が「人」を殺す事の難しさを感じた。思い出された小説がある。極限の飢餓状態で人肉を食べて生き残ることを題材とした怪奇小説三部作に、野上弥生子の「海神丸」、大岡昇平の「野火」、武田泰淳の「ひかり」がある。「ひかり」の内容は、「難破した船で生き残った乗員四人が洞窟に辿り着く。そこには食材はなく極限の飢餓状態のなか、船長と西川が仲間二人の肉を食べる。西川は罪悪感にさいなまれる。その時、西川の首のうしろに、ヒカリコケのような淡い光が浮かび上がる。船長が自分を食おうとしていたことを察知して、海に身を投げようとするが船長に

追いつめられて食べられてしまふ。船長は生き残った理由に依って裁判で裁かれ「多数の中」のあらずは、「多数の中で若狭国甲府の侍、金沢武弘の死体が見つかった。検非違使に尋問された妻真砂の証言、続いて、多妻丸が、男を殺したのは自分だと告白する。』この作品は、「巫女の口を借りた死霊の証言を告めて、証言者は、各々の保身のために嘘をつく。」ことを通じて、「真実は数の中で、分からない。」と語り事が主題となっている。極限の状況下での「冤罪」、「保身」など、考えさせられる。最近、毎日のように、殺人を含めた多くの事件がテレビで報じられている。また、事件にはならないまでも、日常的にトラ

ブルが多過ぎるような気がする。現代人は、欲望からくる「ねたる」や「やっかみ」に取り付かれた「極限の状況下」にあって、「自己満足」と「保身」のために「うそ」という「冤罪」をまき散らして生活している人が多いように思われる。自分の思いが満たされないと、「モンスター」になったり、他人を巻き込んで「いじめ」たりして「人間関係」を悪化させ、人を傷つけ、やがて、それが犯罪へと繋がって行くのではないだろうか。そして、豊かなはずの現代社会に、不安を感じるのは、現代人が、自分の「身を養う」事にエネルギーを使い、心の皆みである「魂を大切にしない」日常生活を送っているからではないだろうか。今こそ、経済や文化的な活動によって、人が生きていく上で必要なものだけを追い求めるでなく、心の皆みに打ち込まれた発展を目指すように心がける時を迎えているのではないかと感じる。

日蓮聖人伝



「御出家」
日蓮聖人の出家は十二歳の時でした。小浜から北西に登った清澄寺に修行僧として入られました。清澄寺は、七百年代に不忠法師が虚空蔵菩薩を奉納してから始まると言われています。清澄寺の略縁起を見ると、不忠法師は、現在から二〇〇年前頃、この地に訪れ千光を拜する相の木で虚空蔵菩薩の仏像を彫り、二十一日間修行をしたことから始まるといわれています。

宗の寺となりました。その後、相次ぐ罹災を平定時代に於ける時、代り、延暦七年に最澄が延暦寺の前身である一乗止観院を建立した頃の話しであります。不忠法師の宗旨は天台宗開宗以前の南都六宗派や、山岳信仰の行者であったか定かではありません。天台宗と密接な関係が同われます。

得度十六歳と言いますと、出家と得度とはこのように違うのかわかる方もいるでしょう。出家とは、俗体を離れお釈迦様の契りを結び入門者の儀式ですが、得度は少し意味合いが違います。日本では、奈良時代の大宝律令の頃から得度が行われ、この時代には大変難しい試験があり、一年間に十人前後しか合格しなかつたようです。合格者には度牒が交付され、公務員として優遇されたようです。

院内または、宗門内での何らかの試験に合格した者が度牒を頂ける制度であったものと思われま

先日、沖繩に行ってきた。東京では連日、沖繩の基地問題が新聞やニュースで取り上げられ、沖繩の方は自己のことなのに、さぞ関心があるだろうと聞いてみると、存外基地問題よりも、景気や失業問題などに注視している方が多く、本土と沖繩との温度差を感じることができた。

三月	般若中夜	塔婆渡安供養
四月	八日	花祭供養
七月	十七日	玉盃盆供養
九月	十五日	施餓鬼法要
十月	十二日	塔婆渡安供養
十月	十二日	お盆盆式法要
二月	十五日	釈尊涅槃会
二月	十六日	宗祖降誕会
四月	八日	釈尊降誕会
四月	十六日	立教開宗会
五月	十日	伊豆法難会
五月	十七日	身延御入山
七月	八日	本尊始頭会
八月	十日	松葉谷法難会
九月	十日	龍ノ口法難会
九月	十八日	池上御入山
十月	十日	宗祖御会式
十月	十日	小松原法難会

新盆の御案内



として用意されるご家庭が多いようです。

最近では、あまり見かけなくなりましたが、蓮の葉に洗米、キウリとナスの角切りを乗せ、ミソ(ハキ)を練り、それを束ねて水をつけ、キウリやナスに、その水をつけお供えがありました。

宝清寺では、新盆のご家庭には、棚経のお経を焼くのを紫陽花です。

宝清寺では、花祭りの(灌仏会)、お盆(盂蘭盆会)の施餓鬼法要、日蓮聖人のお盆を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養、月命日供養等も行っております。詳しくは事務所までご相談ください。

◆新盆の御案内
昨年の六月以降に逝去された方と、今年の五月までに逝去された方は本年が新盆になります。

最近では、あまり見かけなくなりましたが、蓮の葉に洗米、キウリとナスの角切りを乗せ、ミソ(ハキ)を練り、それを束ねて水をつけ、キウリやナスに、その水をつけお供えがありました。

宝清寺では、新盆のご家庭には、棚経のお経を焼くのを紫陽花です。

宝清寺では、花祭りの(灌仏会)、お盆(盂蘭盆会)の施餓鬼法要、日蓮聖人のお盆を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養、月命日供養等も行っております。詳しくは事務所までご相談ください。

宝清寺では、花祭りの(灌仏会)、お盆(盂蘭盆会)の施餓鬼法要、日蓮聖人のお盆を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養、月命日供養等も行っております。詳しくは事務所までご相談ください。

宝清寺では、花祭りの(灌仏会)、お盆(盂蘭盆会)の施餓鬼法要、日蓮聖人のお盆を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養、月命日供養等も行っております。詳しくは事務所までご相談ください。

故人が生前に好きだった食べ物や飲み物をお供えして下さいます。また、お盆用の「キウリ」の馬「お見送り用の」十の「牛」などをお供え物

意することもあります。が、無理に用意する必要はありません。できる範囲で結構です。

宝清寺では、新盆のご家庭には、棚経のお経を焼くのを紫陽花です。

宝清寺では、花祭りの(灌仏会)、お盆(盂蘭盆会)の施餓鬼法要、日蓮聖人のお盆を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養、月命日供養等も行っております。詳しくは事務所までご相談ください。

宝清寺では、花祭りの(灌仏会)、お盆(盂蘭盆会)の施餓鬼法要、日蓮聖人のお盆を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養、月命日供養等も行っております。詳しくは事務所までご相談ください。

宝清寺では、花祭りの(灌仏会)、お盆(盂蘭盆会)の施餓鬼法要、日蓮聖人のお盆を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養、月命日供養等も行っております。詳しくは事務所までご相談ください。